



させほ夢大学

発行●公益社団法人 させほ夢大学
編集委員会
事務局／〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
http://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

開催ご案内 25-9556

夢のつづき

させほ夢大学会報

No.284 <2019・9>

令和 元年度
第6回

2019年 9月19日(木)

アルカスSASEBO 大ホール

●開 場 午後5:30
●夢のひろば 午後6:00
●講 演 午後6:30

「みんな!アメリカへ行きたいか〜!!」
今回は、「アメリカ横断ウルトラクイズ」や、「全国高等学校クイズ選手権」など、往年の人気番組の司会者として大活躍。現在も「開運!なんでも鑑定団」「真相報道バンキシャ!」「エンタの神様スペシャル」「世界卓球」などレギュラー番組を多数もつ人気司会者 福澤朗さんをお迎えします。

福澤さんは、早稲田大学在学中に俳優への道を模索し、劇団の養成所に通って演劇の勉強もされていた方。アナウンサーとしての言語的な伝達能力だけでなく、演劇で磨いた感情表現も含めたコミュニケーション能力を極めたスペシャリストです。

福澤さんは、「皆が携帯を使いこなす、SNSで情報をやり取りする時代だから、逆にコミュニケーション能



©Norio Suzuki

力を訓練する機会が減っている」といわれます。しかも、日本人には生まれてこの方、発声練習というものをしたことがないという人も多いそうです。

後進の指導にも熱心な方として知られている福澤さんは、「生で声を聴かせてもらえば、その人の声や言葉のどこに問題があるのか分かる」とおっしゃいます。200人~300人の方であっても、一斉に声を出してもらえば、何を矯正すれば良くなるのか把握できるのだそうです。

「集団であっても大きく変わることができる」といわれる福澤さん。今回は、私たちさせほ夢大学2千人の学生を、心をのせたコミュニケーションで豊かに変えてくださることでしょう!どうぞご期待ください。

講 師 ● フリーアナウンサー ふくざわ あきら **福澤 朗氏**

テーマ ● 心をのせたコミュニケーションが人生を豊かにする



次回のご案内

■と き / 10月17日(木)

■講 師 / スポーツ文化評論家 たまき まさゆき **玉木 正之氏**

■テーマ / オリンピックから世界の未来が見える

●1952年京都市生まれ。東京大学教養学部入学後、在学中より東京新聞で執筆開始。以後、雑誌「週刊ポスト」「週刊現代」「GORO」「Number」「文藝春秋」「新潮45」や、朝日・読売・毎日・日経等の新聞で執筆活動。日本で最初のスポーツライターを名乗る。「音楽の友」「CDジャーナル」等で音楽評論、映画評論も手がける。日本福祉大学客員教授。「スポーツとは何か」「スポーツ解体新書」「クラシック道場入門」「オペラ道場入門」等著書多数。訳書にR・ホワイティング「ふたつのオリンピック」など。

福澤 朗氏のプロフィール

●1963年東京都出身。早稲田大学第一文学部卒業後、日本テレビ入社。アナウンサーとして「全日本プロレス中継」「ズームイン!!朝!」等数々のヒット番組に出演。2003年には日本テレビアナウンサー有志と「福澤一座」を旗揚げし、脚本・演出・座長を務める。05年7月同局チーフ・アナウンサーを経てフリーアナウンサーに。現在は「真相報道バンキシャ!」「開運!なんでも鑑定団」「世界卓球」等多数の番組に出演。趣味は日本酒、鉄道、和菓子巡り。特技は卓球。





田中優子氏

歴史を見つめて今を生きる
佐世保市長 天神 吉田 秀典

久し振りに先生の講演を拝聴し、長い営みの中で積み上げられた過去の歴史が、現在において繰り返されて、特に江戸文化の多様性が今に継がれ、現在を形作っていることに、興味を覚えるとともに再認識しました。

過去の日本を見れば、当時は海外の物を自国の物とし、外国の物を日本にしかない独自の物へと変化させ、生み出す努力と底力がありました。

江戸時代は、藩校・私塾・寺子屋などで自由に学び、語り、議論する姿があり、現代特に不足していると言われるコミュニケーション能力の大切さは、世代を超えて今一度見直す必要性を痛感しました。

三行感想文
夢のとびら

■江戸文化研究者でエッセイスト、そして法政大学総長というスーパーウーマンは、物腰の柔らかい、心の温かい素敵な人でした。遙か昔の江戸時代に思いを馳せて、心地よく拝聴しました。
佐世保市光月町●国松 仁志

■グローバル化？ 世代の変革は常に進歩をしているのでしょうか。情報が満ち溢れている現代において、将来の不安を思うよりも、今日一日と明日を一歩ずつ興味あることを幅広く学ぶのも、大切なことだと教えて頂きました。
佐世保市赤崎町●木村 典子

人材を育成することは、昔も今も同じだと思います。江戸時代の教育のあり方から見ても、現在の教育のあり方にも、方法論として一考を要するのではないのでしょうか。

田中さんご自身が、お母さんを介護されている経験からくる自宅介護の話には引き込まれました。社会保障制度を理解したうえで、利用し工夫することで、十分に自宅介護が可能となる話は、最後のあり方に希望を持てるものと感じました。

受講し、知識として学んだことを糧にして、自身の生活に取り入れ、努力を重ねていきたいとの思いを強くしました。

また、「夢のひろば」でがんばって演奏した小学生の皆さんに清々しさを頂きました。ありがとうございます。

■江戸時代のグローバル化。大変楽しく、これからの時代の変化が楽しみになりました。
西松浦郡有田町●前田 恵美子

■歴史をひもといいた講義をうけ、日本が国際社会の中で他国から影響を受け、自国独自の技術や文化を築いてきたことが理解出来た。また、それぞれの時代で、教育がいかに大切であるのか、これからますます日本も多様化し、柔軟な考え方が必要になると感じた。
佐世保市原分町●吉村 和美

コミュニケーションは平和の素
佐世保市南風崎町 横山 春美

古賀理事長の挨拶では、終戦記念日にちなみ戦争について語られた。この夏はマスコミでも昭和天皇の肉声資料やソ連抑留者の遺骨の取り違えなどの記事が踊った。多くの犠牲の上に成り立っている「今」を大切に、二度と戦争をしない国でありたい。

講師の田中優子氏の着物姿はテレビでは拝見しているが、その凛としたお姿に再びお目にかかることができた。江戸文化研究の第一人者であり、大学の総長という多忙ぶり、日韓関係にも言及。仏教や磁器の伝来など、朝鮮半島経由の文化は多い。しかし、今日の日韓関係の悪化は残念だ。

江戸は世界最大の都市であったとのこと。鎖国の江戸時代

■テレビでお見かけするように和服で出てこられた田中総長。漢字やひらがなの成り立ちから、江戸時代の藩校や寺子屋についてのお話をされ、大学で授業を受けているようでした。また講義を聴きたいです。
佐世保市木風町●西 照美

■夢のひろば「プラスシューデ」の浴衣姿の子供達は、とても可愛く、全員が孫のように思えて涙が出ました。これからのプラスバンド技術の成長を見守ります。
佐世保市野中町●川村 信子

史実を学ぶ
佐世保市早苗町 牧 千寿

江戸時代になって大きく変わったことは、「戦争をしない。産業を伸ばす。技術力をつける」と田中優子氏。国際的な場や視点。つまり、世界から見ると観点が大事で、違う価値観が集まったら、新しい案が生まれ、産業が発達する。一方、日本独自の技術が広がり、海外から入ったものが、日本化していく。そして、発想の転換と柔軟性で、新しい時代を支配されることなく乗り越えてきた史実を学ぶ貴重な機会となる。

変化の時代を生きる
佐世保市梅田町 森 洋子

田中優子氏は、法政大学総長として日々学生に接しておられる。ご自身にも言い聞かせるように言われるには、

代、唯一の窓口であった長崎を通じて、世界中のいろいろな文化を取り入れ発展した。また、寺子屋などを通じて、日本人の識字率は高く、手紙というコミュニケーションの手段を得た。

これからは柔軟な発想の転換をして、新しい時代を切り開くべき、と締めくくられた。人、文化、物のコミュニケーションは平和の素だと思ふ。

夢のひろば

◆日時／9月19日(木) 午後6時～6時20分
 ◆演目／女声合唱
 ◆出演／花の森コーラス、コール・トワニー
 リリコ・コーロ (三団体の合同合唱です)
 指揮／坂井 洋子
 ピアノ／江口友規子、濱崎 典子

◆出演団体紹介

2年に一度の「合同コンサート 第5回」を昨春秋、無事に終了することができました。嬉しい時、悲しい時、皆で歌えればとても幸せなやさしい気持ちになれるようです。

今回も同じステージに立てる機会を頂きまして、感謝申し上げます。これからも、大切な仲間と共にずっと歌い続けていきたいと思っております。

◆曲目

- 北の国から 作曲 さだまさし 編曲 松下 耕
- ゴンドラの唄 作詞 吉井 勇 作曲 中山晋平
- 九十九詩人 作詞 阿久 悠 作曲 羽田健太郎
- 九十九島 作詞 伊能忠敬 作曲 池田松洋



プラスシューデのみなさんによる金管バンド演奏

凜とした着物姿で「グローバリゼーションの中の江戸」を語る

「若い世代に対して、私達の頃はこうだったというのを通用しない。誰もが変化の波に適應していかなければならない時代である」と。

国境を越えてビートル・モノ・カネが活発に移動するようになったのは、いかにも近代現代になってからのようなイメージを抱いてしまうが、飛行機もインターネットも無かった大航海時代に、すでにグローバリゼーションは始まっていた。ヨーロッパから宣教師や商人や医師がやって来る。東インド会社が大量にヨーロッパへ輸出した陶磁器がマイセン焼等に影響を与えた話は、歴史の教科書でも学んだ通り。江戸の粋な女性の着物の木綿布が、インド更紗に習って作られたとは驚きだ。鎖

国の中、限られた窓(出島)を通し世界と繋がっていた江戸。江戸の人々には、海外からの新しい知識や技術を貪欲に吸収する柔軟性だけでなく、自分に合うようアレンジする想像力があつたようだ。日本の時計作りが好例と言える。

「昔はこのようにしていたはダメ」と田中先生が言われたのは、今まで培った知識や経験を全否定するものではないと思うが、近年、変化のスピードが加速しているのも事実だ。世代や文化や国の境界を乗り越えて、自分を見失うことなく変化の時代を生きるためには、江戸の人々のやり方が大いに参考になりそうだ。

講演を聴かれた感想をお待ちしています！

※締め切りは講演日の1週間後(必着)
 ※宛先は、させほ夢大学事務局まで

平和な輝きをつないで

佐世保市太富町 吉次 公字

ピカピカに光つた楽器を、しっかりと抱いて演奏する子供達の一生懸命さが伝わってきた、素敵な演奏でした。これからも頑張つてほしいと思います。

そして今日の講師は、江戸文化の研究者田中優子先生。日頃忘れかけていた日本史を思い出しました。

日本にとつての「江戸時代」は、オランダ、中国以外の外国との交通、通商は禁止されていたものの、藩校が出来、庶民の子には寺子屋が出来て、若い人々の教育を高めて育てた。世界に目を向ける大切さが伝わり、日本の生活、文化の向上が計られ、長い歳

月を経て、原爆の恐ろしさも経験させられた。今、世界の日本の日本として、平和な輝きを、令和元年へとつないでいるのだと思います。

雨が降らず、いい夜でした。

江戸文化から学ぶ

北松浦郡佐々町 法本 安子

講師田中優子氏は、法政大学の総長で生え抜きの女性トップである。田中さんといえは着物、今日も凜と着物を着こなしてのご登壇。テーマ「グローバリゼーションの中の江戸」は、私には難しく思えたが、聞いていくうちに見る視点、国際的な視点で考えることで理解が深まる。なるほど視点が大事ということか。

江戸時代の印象は、鎖国により閉鎖的な国であり、その中から独自の文化が生まれたと思つてきた。しかしそれをグローバルな視点から見ると、全く違う江戸文化が見えてくると話された。AI、少子化など多々問題を抱えている日本だが、新しい時代に向け昔の江戸文化からも学ぶことが見えてくるかもしれない。時代の流れの中で伝統を引き継ぐという事は、何を守り何を変えていくかが大事な事なのだろう。

物づくりの国日本を創造した礎は江戸時代にあったのか。

華のお江戸の文化や暮らしぶりを



優子先生にたっぷりお聞きしましょう

最後に、グローバルな人材の育成に取り組む法政大学をしっかりとアピール。さすが総長さん、素晴らしい。

江戸文化の伝統技術

佐世保市世知原町 本山 弘子

「夢のひろば」の幕が開くと楽器を手はずらりと並んだ可愛い浴衣姿の小学生に会場は歓声！1年生から6年生までが楽器を中心に演奏。私はリズムにのせられ、つい手拍子。若返つたHappyな気持ちになりました。

田中優子氏の江戸文化のお話の中に、有田焼、伊万里焼、鍋島焼の陶器の絵付けの技術の高さは海外にまで及んでいたとのこと。江戸時代から、日本の色鍋島の伝統技術が現在も「今泉今右衛門」家等に継承されていること。興味深いお話でした。

地中に眠る 戦国物語

〈Vol.6〉

時代に翻弄された早岐瀬戸の城
〔大刀洗城〕

佐世保市教育委員会
松尾 秀昭

針尾島に居城したのは針尾氏のほかに佐志方氏もいた。と言うと、「針尾は島だったのか」と質問されることがよくある。佐世保市の南端に浮かぶ巨大な島は、確かに伊ノ浦(針尾)瀬戸と早岐瀬戸で分断されているのだが、現在、西海橋や観潮橋などの陸路で結ばれているために、「島」としての認識が薄れつつある。

前回は伊ノ浦瀬戸に面する針尾氏の城を紹介したが、今回はもう一つの早岐瀬戸に面する佐志方氏の城を見てみよう。この城は「大刀洗城」と呼ばれているが、当時の名称は伝わっていない。聞くところによると、地元に残る「殿様がここで湧き出た泉の水で大きな刀を洗った」という伝説に因

んだようだ。こんな不確かな情報で名が付けられた遺跡に関わらず、実に興味深い姿を現したのである。

針尾島東部の有力氏族であった佐志方氏は、一五〇〇年中頃(天文年間)に針尾氏との戦いに敗れ、針尾島を追い出されていた。しかし、その後も情勢の変化に伴って針尾氏とは友好、敵対を繰り返し、最終的には平戸松浦氏と友好関係を築き、江戸時代を針尾島で迎えることになる。「針尾島」は平戸松浦氏、大村氏等の領土拡大政策の中で、立地的にどちらとも接しているために、情勢や時代によって敵味方を替え、生き残る術を心得た氏族といえよう。

そのことが発掘調査で見つかる遺構や遺物の解釈を



大刀洗遺跡：出土した中国産青磁

より難しくする要因であった。簡単に言えば、佐志方氏の城で見つかった輸入陶磁器は、針尾氏もしくは平戸松浦氏を経由したのか、それとも独自に早岐瀬戸を通過する貿易船から得たものであるのか・・・。

発掘調査では、一三世紀までに堅牢な石垣で囲まれた敷地を造成し、一五世紀になると朝鮮半島からの輸入陶磁器を豊富に持ち始めていることがわかっている。また、当時の柱が残る一二×六mの巨大建物も見つかっている。時代によって敵味方を替えることによって、様々な交易ルートを確保していたのかもしれない。

そして、一五世紀中頃以降、彼らは突如としてこの城から姿を消している。現在の江上支所裏に居城していた彼らは、ハウステンボス方向に数百m南下した佐志方城へと移った可能性が高い。江戸時代後期に活躍した伊能忠敬の日記に「左に古城あり」とされた古城は佐志方城である。佐志方城の調査を行えば、戦国時代末期の彼らの生活や緊迫状態が分かってくるかもしれない。

事務局だより

★田中優子さん、ありがとうございます
ございました

小学1年生から6年生までの可愛いプラスチックバンド演奏に続いて登場された田中さん。素敵なお姿で到着され、「グローバリゼーションの中の江戸」というテーマで講演されました。

現在のグローバリゼーションの波は大航海時代から始まっており、その間幾多の動乱期に日本が対応してこられたのは、日本人が学びを大切に多様性を重んじながら、人材や豊かな文化等を育んできたからとのこと。転換期である現在も、科学技術等の発展に寄与すると同時に過去や歴史に学び、柔軟な発想をもって現在や未来へ生かしていくことが大事とのお話に、会場は静かに聴き入っていました。

★学生証について

①講演会にご本人が欠席の場合は、学生証があれば代理出席が可能です。

代理出席の方には、必ず学生証を貸与してください。学生証がない場合は、残念ながら入場をお断りせざるを得ませんので、ご注意ください。

②当日に学生証をお忘れの方には、「ご本人に限り」当日

のみ有効の学生証を発行します。ただしご本人の確認をさせていただきますので、よろしくお願い致します。

★マナーについて

- ①他の会員の方のために座席取りはおやめください。
- ②スマホや携帯電話等の「電子機器類」の電源は、確実にお切りください。
- ③写真撮影及び録音・録画は禁止です(著作権法の関係上)。
- ④1階の最後尾列に優先者席をご用意しています。主に車イス利用の方を対象としていますので、皆様のご協力をお願い致します。

★おわび

8月の定例講演会は、アルカス会場の都合により初めての開催となりました。開場をお待ちの皆様には、暑い中お待たせした事をおわびいたします。開場時刻につきましては、通常リハーサルが開場直前まで行われていますが、今後は臨機な対応を検討して参ります。

講演を聴かれた感想をお待ちしています!

600字程度にまとめて、させば夢大学事務局まで、郵便・FAX・メール等でお送りください。締切日は講演日の1週間後の木曜日(必着)です。